
闇サイトのご案内いたします

ゆう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇サイトのご案内いたします

【Zコード】

Z3496F

【作者名】

ゆづ

【あらすじ】

高校の充はネットで悪口を書き込むのが好きといつ悪趣味を持つ。そんなある日「闇の案内人」からメールが届く。彼女は「悪夢」から脱出できるのか。

(前書き)

警告・ホラー小説です。少々ショックなシーンもありますので苦手な方はご注意くださいませ。

充は、もうずっと泣いていた。雨の中、膝をついて泣いている。

顔を両手で覆い真っ赤に充血し腫れた眼はカメレオンの様だった。

路上に打たれる雨の音。

ピンクのビーズやラメでかわいらしくデコレーションされた携帯は、泥と雨水でもはや使いものにならない、ひどい状態だった。

雨音が、耳を裂くように大音量になると、どんどん遠くなっていく。充はその場で倒れる。

そのまま雨に溶けていきたいと願った。

数日前、一通のメールが充の携帯に届いた。

「貴方は呪われました。呪いを解くにはあと3人にメールしてください」

…チョンメか…。今時チョンメなんて、時代遅れすぎ。

そう思い充は送信者を確認する。

知らないアドレス。

それも、サブアドレスだった。迷惑だ…。そう思い少し怒りながらも充は、そのメールを消去した。

学校でも全くメールのことなど忘れて普通に過ごしていた。

3日後、テストが終わると充は真夜中にネットサーフィンをする。充は、普段から同級生の噂などの書き込みを見るのが好きで、悪口を書き込むのも好きという悪趣味だ。

掲示板の方を見ていると、一番下にリンクがあった。

リンクといつても文字はない。

好奇心でクリックしてみた。

すると途端に自分の部屋が、真っ暗になつた。

「なにこれ…」

電気を点けようとボタンを押すが、何も点かない。

怖くなってきた充は、両親の居る部屋へと行く。

しかし居ない。

今日はもう仕事から帰つて来ているはずなのに……。
おそるおそるドアを開けると、当たり前だが真っ暗だ。

携帯だけが頼りだ。

その人工的な光だけが。

するとまたあのアドレスからメールが届く。

「闇サイトへようこそ。あなたは3日以内にお友達にメールを回しませんでしたので、呪われました」

「……ちよつ……と……なんなの……？！これ……」

意味が分からない。

だが充はこれだけは確信していた。

これからとてつもない恐怖に翻弄されるだろう。

そう思ふと充はぞくり、とした。

すると突然ふつりと携帯の電源が切れた。

そして闇空が明るくなつていいく。まるでビデオを早送りしているかのように不安定な雲が広がつていいく。

雨が降りだす。

もう何がなんだかわからない。

頭が可笑しくなる。そして泣き崩れ倒れて雨に沈んでいく。

ピロリン

充を起こす様に、壊れた箸の携帯から着信音が鳴り響く。

充ははつと携帯を見た。

ディスプレイには「これから罰ゲームを開始します」とメールが来ていた。

「なつ……！」

充の混乱は益々増すばかりだ。

今度は気づくと学校に居た。普通に制服を着て、席にも着いている。全員が着席している。

「おはよ……」

充がそう言つた時だつた。

全員が起立した。

そして一人残らず無表情のまま、窓から飛び降りて行つた。一瞬だけ宙に浮く親友の後ろ姿を見た。

まるで戦時に追い詰められ崖から飛び降りた女子供のように。下の方でどすんと次々と鈍い音が聴こえた。

充のクラスの教室は5階だ。

死なない訳が無い。全員が間違いなく即死だろう。

「…………」

呆然とした。

何が起きたのか、わからなかつた。

携帯のバイブレーターが空っぽの教室に鳴り響いた。ゆっくりと、ゆっくりと、その携帯をポケットから取り出した。またあのアドレスからだつた。内容は充がネットの掲示板に書いた同級生への悪口だつた。

<みんな死ねばいいのに

あなたがそう仰るので全員が死にました>

そんな。

あまりのショックに充は暫くフリーズした。そして肝心なことに気付いた。

(返信して：みようかな……)

今まで急に電源が切れたり、あまりに非現実なことが起きたので気づかなかつたのだ。

本当に、誰かの仕業で、何かの冗談だと思っていた。
しかしこの事態が起きてしまっては、返信しない訳にはいかないだ
ろう。

充：「あなたは誰ですか？あなたが皆を殺したんですか？」
すると直ぐに返信が来た。

「ようやく返事をしてくれましたか。私は、闇の住人です。名前な

どありません。あなたの心の中に存在する者です。そう、あなたが
皆を殺したのです」

そのメールを見ると

「は…っは…はははは…わたし…わたし、私、が、悪いんだ？」
充は、狂ったように失笑した。

窓の遙か下を見ると39人もの屍が重なり連なっていた。

ズキン！！

突然の痛みに驚き手を見る。

手の平に「キモイ」という文字が浮かび上がって来たのである。
赤い血の色をしていた。というか、血だつた。刺青の様に。

チクッ

次は頬が痛み出す。

（まさか……）

トイレの鏡を見ると、「ウザイ」と頬に刻まれていた。

震える手で顔を覆おうとしている、片手に持つた携帯 自分の「
闇」からすかさずメールが届いた。

「それがクラスメイトの彼らからの呪印です。侵食すればあなたは
そのまま死ぬでしょう」

充は愕然とする。

自分がしてきた愚行を走馬灯の様に思い出し後悔し懺悔した。そして理解した。自分の罪の重さを。

異世界 即ちネットの世界で、ボタンひとつで発言が出来る。そのネットの回線は、実は人間一人一人の心に綿密に繋がっている。そして人の心は生臭くて柔らかくて、脆い。簡単に傷つく。
初めて、皆の痛みを知った気がした。

皆相手の顔が見えない卑怯なその世界でナイフで切りつけられ、血を流し、苦しめられたのだ。

愚かで卑怯な私を許して。

そう思つた途端に闇が、壊れた音がした。

携帯にヒビが入ると砂の様に消え去つていった。

窓のすき間から覗く重い鼠色の雲が、空が、ピシリ、ひび割れいく。

ガラガラ、トイレスのドアが開いた。

「……」

今度はなに……？充は覚悟した。

「あれ？いたいた！充、なにしてんのー今授業中だよお。先生怒つてるよー」

さつき死んだはずの、親友の真希だった。

充は腰を抜かした。

「どうなってる…の？」

「?なにいつてんの？行こいつよ

「……うん

親友に手をひっぱり連れられて、何事も無かつたかのよつて、いつしょに廊下を歩く。

窓から見える空の雲から冬の太陽の光が覗いていた。

二人の影が教室に向かつて歩く速度を速めた。

「……」めんね

「なにが？」

「これからも親友でいてくれる？」

「なに言つてるの、急に？当たり前でしょが

真希は無邪気に笑つた。

「充の携帯、机の上に置きっぱなしだったよ。あ、見てないからつ

つ

「え、本当に？」

真希がガラリ、と教室のドアを開けると其処には悪夢の前のいつもと変わらぬクラスメイトの姿があつた。
皆が一斉に真希と充に注目する。

「 いら、早く席に着け」

先生が一喝した。

「はいっ」

二人は各自の席に着いた。

充が携帯を見ると、「闇の案内人」からのメールは全て消えていた。また始まる。日々が。今度は暗い闇なんかじゃない。何も無かつたかのように、充は罪を隠して生きていく。その罪を償つことは、きっと誰にだつて出来るから。

(後書き)

いじめで読んで下さり有難う御座ります……どうでしたか?~やつぱり暗くなつてしましました。。。感想などお待ちしております(^ - ^) -

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3496f/>

閲サイトのご案内いたします

2010年10月28日07時31分発行